

COTO TSLUSHIN

発行／滋賀医科大学同窓会「湖医会」
〒520-2192 大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL 077-548-2074 FAX 077-548-2094
e-mail: koikai@koikai.org
http://www.koikai.org

湖都通信51号

Since 1987 Editor Takehiro Inui
Co-editor Takashi Kadowaki
印刷／昌栄印刷 2006.7.10

「滋賀医大保育所(仮)」今年度実現へ

●●●運営委託業者を選定●●●

「湖医会」で長年の継続審議になっていました『学内保育所』がいよいよ今年度内の運営を目指して具体的に動き始めました。

「湖医会」では、4年前の「学内保育に関するアンケート」に始まり、滋賀医大生協と連携をとり、学長よりの諮問を受けて昨年3月に発足した「保育所設置に係わるワーキンググループ(座長、社会医学講座助教授埴田和史氏、医3期生)」(以下WGとする)に参画し、開設までの様々な検討を重ねてきました。2005年11月には、WGの中間報告並びに「保育所設置に関するアンケート」を実施させていただきました。その後12月にWGより提出された答申書が、保育所設置の基本構想として、ほぼ全面的に受け入れられる形となりました。

更には、公募(競争入札)による保育所運営委託業者の選定に際して、同窓会と大学生協が連名で、左記内容の要望書を提出しました。

- 1、保育を営利対象としない豊富な保育実績をもつ業者を選ぶ。
- 2、親が安心して子どもをゆだねることができるよう、経験豊富な有資格者を保育にあてる事業者を選ぶ。
- 3、多様な利用者や特殊な保育要求に対して、創造的・継続的に



3月24日、医学科94名・看護学科69名が滋賀医大を卒業し、「湖医会」正会員の仲間入りをしました。卒業式後は恒例の「湖医会」主催『卒業祝賀会』が催されました。教職員・先輩・後輩が学食に一堂に会し、賑やかなひとときを過ごしました。

また4月4日には入学式が行われ、医学科85名と看護学科62名・同編入生10名、計157名が「湖医会」准会員となりました。

- 4、保育所経費の「適正価格」を設定する。

また運営委託業者の選定にあたる「保育所運営委託法人等選定審査会」に「湖医会」会員からは、埴田氏・山本依志子氏(医16期生)・澤井ちひろ氏(医19期生)・平野加代子氏(医19期生)をはじめ、看護部・職員・学生・生協代表者も委員として参加し、運営委託に応募した3法人からの業者選定に尽力しました。現在、大学役員会が最終の委託先について検討しています。

今後「湖医会」としましては、『学内保育所』運営スタートに向け、出来る限りのバックアップをするともに、「湖医会」会員の皆様に確実な情報を「湖医会」HP等でご提供していきたいと思っています。



主な記事

抱負を語る・・・・・・・・・・2～3
医15期生卒後10年同期会・・・・・・・・・・4
活発に活動しています・・・・・・・・・・5

学外有識者会議に参加して・・・・・・・・・・6
議事録 / 紹介『ソレイユ』・・・・・・・・・・7
LITTLE WINDOW・・・・・・・・・・8

湖医会会員の皆様こんにちは。2006年2月から琉球大学医学部医学科高次機能医科学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野（耳鼻咽喉科）教授として赴任いたしました。赴任に際しましては吉川学長を始め多くの先生方にお力添えいただき感謝申し上げます。琉球大学は1950年に開学されていますが、医学部は沖縄の日本復帰（1972年5月15日）から遅れること9年、1981年4月に開設されました。それまでは内地留学生として全国の医学部で学んだ多くの先生方が帰沖し診療にあたっておられました。当教室でも初期には多くの内地留学生が入局され、教室の基礎を創っていただきました。私は開講から3代目の教授となりますが、琉球大学で育ったこれらの先輩方が、沖縄各地で現在も活躍しておられ若い医師の教育・研修に関しては大変恵まれた環境にあります。沖縄は青い空と海のイメージがありますが、反面多くの社会問題（米軍基地問題、高失



南 風 鈴木幹男（医6期生）

琉球大学医学部高次機能医科学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 教授

業率、食事の欧米化による生活習慣病の急増、慢性的な交通渋滞などを抱えています。このような社会情勢の中で、私の目指す医療（低侵襲性と根治性の両立）をどのように発展させるべきか思案中です。疾患では慢性中耳炎、副鼻腔炎などの炎症性疾患が多いのですが大学ではさらに頭頸部腫瘍センターとして、手術療法を中心とした集学的治療を行っています。テレビ番組「ちゅらさん」や「Drコトー」を見た方も多いと思いますが、離島でなくとも番組の様な昔ながらの医師を信頼する態度が色濃く残っており、沖縄県では医師と患者との良い関係を築きやすい素地があります。私は滋賀医科大学の卒業生としてこれまで学んできたことを生かし、医療の原点に立ち帰り沖縄県の文化・伝統を大事にした医療を創生していきたいと考えています。在校生・卒業生で興味がある方は是非御連絡をお待ちしております。連絡をお

首都圏で頑張ります

聖マリアンナ医科大学内科学（代謝・内分泌内科）教授

田中 逸（医6期生）



2006年4月1日付けで聖マリアンナ医科大学代謝・内分泌内科教授に就任しました。私は京都市で生まれ、工学部を卒業して自動車メーカーのエンジニア勤務を経て滋賀医科大学に入學、昭和61年に卒業した6期生です。同じ年代の先生方と比べて6年間遠回りをして医師になりましたが、今ではこの6年間は大きな糧になったと感じています。卒業8年間は母校第三内科で前半は内科全般の研修、後半は糖尿病・内分泌疾患の専門臨床と基礎研究に従事しました。平成6年に東京都済生会中央病院内科に赴任し、糖尿病の臨床と患者教育を学び、平成7年から順天堂大学内科学代謝内分泌学講座に移りました。以来11年間この領域で活動が続けた後、新しい職場に赴任しました。何分にも38歳から首都圏に出ましたので、こちらでは関西弁風の標準語で話しています。

聖マリアンナ医科大学は川

崎市北部にあり、最寄り駅は小田急向ヶ丘遊園、東急田園都市線あざみ野ですが、両駅からはいずれもバスで15分程度かかります。周囲は住宅地で小高い丘の上にキャンパスがあり、近くには明治大学や専修大学のキャンパスもあることから滋賀医科大学に立地が似ています。現在の医局は関連病院や分院への派遣者を除くと、私を含めて18名の小世帯であり、当面は少数精鋭主義で診療・教育・研究にバランスの取れた教室運営を心がけたいと考えています。研修医制度が様変わりし、いろいろな大学出身者が研修医として大学病院に勤務する時代になりました。生活習慣病のスペシャリストを目指す若手医師が全国から集い、新しい知見を世界に発信し、専門医を続々と輩出する施設となるよう力を尽くしたいと思います。今後とも皆様方のご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

この度、兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科教授に赴任致しました6期生の保木です。名前からも想像できると思いますが、「管理栄養士」を養成する大学であります。私は卒業後、大阪大学第一外科、小児外科に入局しました。では、小児外科に進んだはずの私がなぜ栄養士の養成なのかと思われるかもしれません。実は、中に入るまでは知らなかったのですが、教室には、恩師である岡田正名誉教授がわが国でいち早く中心静脈栄養法を導入され、教室員達がその代謝および栄養評価などの基礎的研究を精力的に行ってきたという歴史がありました。また、臨床面

医師、看護師にもっと栄養教育を！ 栄養士にもっと医学教育を！



兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科 教授

保木昌徳（医6期生）

でも附属病院における栄養サポートチーム（NST）による入院患者の静脈栄養輸液管理、経腸栄養管理および在宅静脈栄養施行患者の管理を1972年からシステマティックに各種の栄養指標を用いて行っていました。私も大学院時代の研究テーマが静脈栄養法における脂質代謝などをしていたこともあり通算5年間ほど大阪大学医学部附属病院NSTの一員として主に静脈栄養の管理をしておりました。その後、近畿大学で小児外科の助手、病院講師をすることになりましたが、その外科教授がこれまた現在の日本静脈経腸栄養学会理事長である大柳治正教授でありこの分野とはなかなか離れられなくなったわけであります。約2年半の米国フロリダ

大学での研究生生活を終え帰国してみると日本中の「ブーム」が起こっておりびっくりしたわけであります。講師として赴任した近畿大学医学部奈良病院では院長から辞令交付の際に「NSTを設立してくれ」と頼まれなんとかが任中にNSTの設立にこぎ着け、次に小児外科部長として赴任したり、んくう総合医療センター市立泉佐野病院でも初代栄養管理センター長に任命されここでもNSTを作ることになりました。NSTなどのチーム医療にとつて何よりも要求されるのはチーム全体のレベルアップです。今、一番感じるのは、「医師にもっと栄養教育を！栄養士にもっと医学教育を！」ということです。今後ともよろしく願い申し上げます。

滋賀医科大学生協の第4回総会が5月26日（金）に開催され、来賓として馬場副学長、「湖医会」茶野副会長が挨拶をしました。滋賀医大生協は湖医会も支援をして2003年に設立されました。設立総会の時には600数十名だった組合員も現在は1400名を越え、経営的にも黒字を続けています。

生協を作る際の大きなテーマが食堂の改善と保育所の開設でした。保育所は、湖医会・大学・生協が協議を進め、大学の緊急課題として来春の開設が決定し、現在、運営担当者の選定が行われています。また、食堂の改善も大きく進みました。メニューがふえ、夕食営業がはじまり、米や卵など滋賀県産の食材、学生教職員と一緒に楽しむ「生協祭り」などなど。しかし、利用者が以前の3倍以上になる中で、混雑問題がクローズアップしています。食堂ホールの拡張や、カウンター・

下膳場の改善などがこれからの課題です。

これからも「湖医会」のみならずと一緒歩んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。





たかが10年、されど10年、そして次の10年へ

京大 大学院生 小森英寛

2006年2月18日、琵琶湖を一望できるホテルで再会することができました。期待と不安でそれぞれの方向へ向かって別れた卒業式。以来10年。互いの結婚式や飲み会や学会でことあるごとに顔をみていた仲間も、これだけ一度に集まることはありませんでした。顔をあわせると、あれからいろんな時間があつたのに、卒業したときのまま出会うような錯覚をうけました。10年という時を過ごしたことを思い直すと、無量でどこからどう話したらいいものやら、言葉が出ませんでした。お母さんになつたり、旦那になつたり、ふけたり、逆に若返つたり、ひとそれぞれ。なるほど時間がたつたことを感じました。中身はかわつたのでしょうか。入学時の写真は、私自身は恥ずかしくて正視できるものではありませんでした。ただ、社会人として医師として過ごし、日々の生活に埋没し忘れていた入学したての初心を思い出す(もう、思い出す)ことができました。まだ10年? もう10年? 時間の感じ方はそれぞれでしょうが、一度の人生、納得のいく時を過ごさせばいいなと思います。

遠いところ、忙しいところ、万難を排してお集まりいただいて本当にありがとうございます。また、いろいろな事情でお会いできなかった先生、今回は残念でしたが、またどこかでお会いできるでしょう。あらためて、同期会の準備進

卒後10年の同期会を終えて

滋賀医大内科学講座

真田 充



2005年10月29日、小雨まじりの日に第19回「湖医会」総会が開かれました。同日は若鮎祭も開催されていましたが、比較的静かな午後であったと記憶しています。同期会開催にあたり、一度総会に出席しようと考えていた私は、約15年ぶりに会場となるB講義室に入りました。これが準備の第一歩でした。

それから約4ヶ月の準備期間はあっという間に過ぎていきました。会場の琵琶湖ホテルへの予約は早々に済ませておき

ましたが、問題となつたのは、同級生への連絡をいかにして行うのかということでした。うまく案内が届いているのか、返事が貰えるのか、当初は不安な毎日でしたが、1月以降次々と連絡が入り、最終的に50名から参加の返事を頂きました。また都合により参加出来ない方からも多くのメッセージを頂きました。

2006年2月18日、同期会当日。私は集合時間の1時間前に会場に入ったのですが、既に受付前で数名が談笑していました。久しぶりに見る同級生は、殆ど変わっていない面々ばかりで、「誰だったかな?」などと思うことは全くありませんでした。皆も再会を喜び、あちこちで立ち話...受付前の廊下は人で埋め尽くされていました。

集合写真撮影後、同期会開始。恒例の入学時の写真スライドをバックに近況報告する時は、時に悲鳴のような声も聞かれ、会の雰囲気は最高潮でした。また、自身の病気の影響で、現在医師の仕事を行っていない同級生のスピーチは、「医の心」の原点を問いかけるようで、非常に重みのある、すばらしい内容でした。あつという間に一次会が終了し、二次会には予想をはるかに超える40名が参加、次回の卒後20年同期会にも必ず参加することを約束し、盛況のうちに終了致しました。本当に大成功だったと思います。

最後に、このようなすばらしい同期会が開催できたのも、多くの業務を行って頂いた「湖医会」事務局の皆様のおかげです。心より御礼申し上げます。

保健師会を開催して



島田喜保

(看7期生)

湖北町役場健康福祉課(地域包括支援センター)保健師

滋賀医大看護学科を卒業し、保健師として就職した人を対象に、年に1回交流会を開催しています。また会員相互の情報交換のために、メーリングリストもつくっています。

卒業後、大多数が看護師として就職する中で、毎年数名が保健師として就職しています。地方自治体や企業で保健師として働いていると、変革の波に飲み込まれそうになり、日々迷い悩むことがあります。そんな悩みを共有し、情報交換ができるように、保健師同士で顔を合わせる機会を設けています。

1期生から8期生までの保健師として実務についている人だけでなく、参加を希望する同窓生を含め、会員数は100名を超えました。卒業後2年目が幹事となり、12月頃の集まっています。同期生だけでなく、年齢の異なる方との交流も深められます。

2005年度は、12月10日(土)18時～20時

に京都駅付近で開催しました。先生方・会員29名、在学生4名、計33名が集まりました。滋賀県内だけでなく、富山県や熊本県等、遠方からの出席もありました。まず「規約」について採択を行いました。委任状を含め、出席者全員の承認を得ることができました。会員数が増え、会員全体の同向の把握がむずがしくなり、保健師会についての連絡さえ十分にできなくなっています。今後、保健師会を充実したものにすべく、数年かけて規約を考えました。

次に保健師会副会長の亀田さんによる乾杯の音頭の後、自己紹介と近況報告を行いました。仕事のことでなく、プライベートなことにも話が及び賑やかなひとときを過ごしました。地域生活看護学講座の西島助教授にもお話をしていただき、最後は保健師会長の高城さんの挨拶で閉会しました。

地域住民がいきいきと暮らしていけるよう

に支援していく中で、公衆衛生のプロとしての保健師の専門性を高め、自己実現ができるように、この会の中でたくさんのヒントを得ることができました。今回は参加できなかった人にも会の様子を知ってもらいたいと思い、参加者の感想をまとめたニュースレターを会員全員に送付しました。

保健師として働く場も多様化していますが、一人一人が自分らしく保健師活動が続けられるように仲間との語らいを大切にしていきたいと考えています。より多くの方の参加をお待ちしております。

<連絡先>

E-mail:ksimada@town.kohoku.shiga.jp

(島田まで)



臨床看護学講座母性看護学ゼミ生・院生同窓会

臨床看護学講座 (母性・助産) 助手

白坂真紀

臨床看護学講座母性看護学ゼミ生・院生の卒業生は年1回同窓会を開催しています。

2005年の同窓会では在校生を含め33名の出席者があり勉強会と食事をを行いました。勉強会では、看護学科棟第4講義室において岡部恵子先生(埼玉医科大学教授・元本講座教授)の司会のもと、山下敬氏(彦根市立病院・看護5期生)、中野育子氏(滋賀医大附属病院・修士5期生)、玉里八重子先生(本講座教授)から発表がありました。内容はそれぞれ、男子学生の立場からの看護学実習・事例検討・本大学における助産教育(2005年度助産課

程開設の紹介)について意見交換しました。食事会では、お互いの交流を深めるとともに、在校生が卒業研究の調査でご協力頂いている大槻知子氏(野洲病院看護部長・元本講座助手)はじめ現役看護師・助産師に進路や就職について相談するほか、卒業生同士の情報交換の場となっていました。

今年の同窓会は在籍中の大学院生5名で企画・運営し、2006年9月2日を予定しています(毎年9月の第1土曜日)。現在、「湖医会」上間副会長より助産課程開設に伴い「助産師会」の設立を勧めていただいております。「保健師

会」と同様に「母性・助産会(仮称)」として会を運営していくことなど、今後の母性ゼミ生・院生同窓会の形を皆で考えたいと思っています。ゼミ生・院生以外の方でも母性看護や助産に興味のある方の参加も歓迎しています。多くの卒業生の出席をお待ちしています。

<連絡先は>

TEL/FAX 077-548-2394

E-mail kitamak@belle.shiga-med.ac.jp

(白坂まで)

学外有識者会議(2005年度)に参加して

「湖医会」副会長

金子 均 (医7期生)

2004年4月の大学法人化に際しまして、学長の諮問機関として「学外有識者会議」が設けられております。この2月に行われました第2回会議への参加報告を致します。なお、委員受諾の経緯は、法人化にあたり学長より「湖医会幹部役員の中から、学外職にして良く意見を述べ得る良識的な者」として委嘱され、会長等相談の上、1期2年を受諾し、昨年に続いての参加となったものです。なお、今春2期目を委嘱されております。

《報告》

1. 日時:2006. 2. 24(金)
pm 2:00~4:00
2. 場所:本学管理棟大会議室
3. 会議の意義:次の事項に関し、学長の諮問に応じて審議し助言勧告を行う。

本学の

- (1)教育研究上の目的を達成するための基本的な計画
 - (2) 教育研究活動
 - (3)付属病院の医療活動
 - (4)経営方針
 - (5)その他運営に関する重要事項
(2004年4月1日施行規程より)
4. 会議委員:右記参照
 5. 議事概略:

(1)大学側説明:下記各方面での活動実績

- 1)教育・研究・社会貢献面
- 2)診療面
- 3)経営面

(2) 委員質疑応答等

- 1)学生の確保策
- 2)女性医師支援策
- 3)卒後臨床研修
- 4)学生支援
- 5)医療費抑制に繋がる教育研究
- 6)看護師副院長就任の意義
- 7)看護学科卒業生の定着率
- 8)医の倫理
- 9)安全管理体制など
- 10)ボラン ティア協議会運営支援策
- 11)専門医養成システム
- 12)その他

(※金子委員発言は、委員発言総数約20回中、2)3)9)10)に関しての5回、及び「卒業生の動向概況」についての報告でした。)

《御願い》

委員受諾、会議発言等についてご意見のある方は、2005年度会議広報(滋賀医大ホームページ)→大学紹介→運営組織→学外有識者会議で、更新され次第ご覧いただけます。

す)等熟読され、ご高見をご記名文書にてお寄せ頂きたく存じます。幹部会にて検討致します。又、大学運営等にご意見ある会員の方も、是非お寄せください。当会議および大学との折衝の機会に生かしたいと存じます。

*國松善次 :滋賀県知事

*目方 信 :大津市長

*伊庭嘉兵衛:草津市長

山敷祐亮 : (社)滋賀 県医師会会長

藤井淑子 : (社)滋賀県看護協会会長

日高敏隆 :大学共同利用機関法人

(議長) 人間文化研究機構 総合地球
環境学研究所所長

下西康嗣 :長浜バイオ大学学長

小林 徹 : (社)滋賀経済産業協会会長

*藤井絢子 :滋賀県環境生活共組合理事長

金子 均 :滋賀 医科大学同窓会副会長

労働衛生コンサルタント

【顧問】

岡本道雄 : (財)日独文化研究所理事長

*は今回欠席者(知事、両市長は議会の為)
なお、前回は全員出席。

- 1, 「湖医会」のこれから
- (1) 組織の見直しについて
- 1) 幹事会・常任幹事会ともにスリム化することになった。
- 2) 会務執行にあたり常任幹事会がもう少し権限がもてるよう会則を改正する
- (2) 財政難問題について
- 1) 財政難の原因は名簿発行時の収入減と会費納入率低下
- a, これまで名簿発行時は広告と会費の収入が大幅黒字になり、次年度・次々年度の単年度赤字を埋め、さらに余剰を「資産」として蓄えることができた。
- b, 今年度、個人情報保護法施行後初の『会員名簿』の発行となったが、その影響を受け、広告・会費とも大幅な収入減となった。
- c, 各期生での会費納入率の差が大きく、特に若い期生の納入率低迷傾向が続いている。
- d, 看護学科卒業生の納入率が著しく低い。
- 2) 収入改善を図るために
- a, まず経費の削減を図る。
- b, 紙媒体の広告を見直し新たな掲載方法を考える。
- c, 会員に役立つ情報・サービスを提供し、会費納入率を向上させる。（1案：就職情報照会など）
- 2, 法人化について：法改正による社団法人の可能性検討
- (1) かねてより中間法人化する意見が出ていたが今回調査した結果、中間法人は今年度の法改正で廃止され、「一般の社団法人」として届け出による認可が可能の見通しとなった。
- (2) 今すぐ法人化はしないが、法人化を見据えて準備し、今後さらに検討を重ねる。
- 3, 会則の見直し
- (1) 上記等を踏まえ、全般にわたり再検討する。
- 4, その他
- (1) 吉川学長から金子副会長へ要請があり本人が受諾した「滋賀医大有識者会議委員委託」を了承した。
- (2) 『奨学金』の対象学年・貸与金額等について、運営委員会で見直し、幹事会で報告する。

サポートサークル

紹介します

SOLEIL

障害者を支援する学生サークルです

今から12年前、当時4年生だった荻田謙治氏(医17期生、現近江温泉病院精神科勤務)が、ラグビーの練習中に第5頸椎損傷を起こす事故に遭われました。その時彼をサポートするため、ラグビー部OB・大学教職員・学生が集まり『荻田君を支える会』が発足しました。また「湖医会」が窓口になって『荻田君基金』の募金呼びかけをしました。そして今『荻田君を支える会』は、その範疇を拡大し、『障害者を支援する会』と名称を変えて現在も支援活動を行っています。

障害をもった学生が十分な医学教育を受けられることに、少しでもお役に立てられればと、寄附しました

医学科6回生 牧野 綾

私たちはサポートサークル「SOLEIL(ソレイユ)」と申します。この度障害者を支援する会に寄付させていただくことになりましたので、この湖都通信の一端をお借りして、ご挨拶申し上げます。

自己紹介申し上げますと、サポートサークル「SOLEIL」は、聴覚障害をもつ医学科5年生の竹澤公美子さんが他の学生と同等の医学教育を受けられるよう支援するために彼女の友人たちが中心となって結成されました。現在、結成3年目となり、5・6年生を中心に16名で活動しております。これまで取り組んできたこととしては、講義中のノートテイク(ノートテイクとは"音情報"を文字にすることです)、教官へ講義形式改善の交渉、竹澤さんへ大学カリキュラムの情報提供等があります。

今回、障害者を支援する会に寄付させていただくことになりましたのは、これまでサークルが竹澤さんの支援のため管理していたお金をより幅広く、有効に活用するのに最も良い方法だと考えたためです。寄付させていただいたお金が、竹澤さんをはじめ今後入学するであろう障害をもった学生が十分な医学教育を受けられることに、少しでもお役に立てられればと期待しております。



助教授紹介

西田保裕（医3期生） 滋賀医科大学眼科 助教授



1983年 3月 滋賀医科大学医学科卒業
1984年 4月 滋賀医科大学大学院入学
1988年 3月 同上修了（医学博士）
1988年 4月 近江八幡市民病院眼科
1991年 4月 滋賀医科大学眼科助手
1993年 8月 文部省在外研究員
（カロリンスカ研究所留学）
1994年 5月 滋賀医科大学眼科講師
2006年 3月 滋賀医科大学眼科助教授

2006年3月1日付けで、眼科学講座助教授に就任いたしました。滋賀医大出身者として、これまで多くの方々に育てていただき、大変感謝しています。本講座の伝統分野である斜視・神経眼科を専門とし、斜視や眼球運動障害での外眼筋手術に積極的に取り組み、独自の術式も開発しています。研究では、MRIなどの画像診断装置を用いて、眼球運動障害の病態評価、両眼視機能中枢の同定も行っておりまいた。そして、昨年本講座に赴任された大路正人教授の「明るく、楽しく、活発な眼科」を合言葉に、私もその一員として講座の発展と若手医師の育成のために今後更に頑張りたいと考えています。

★住所・勤務先・肩書き等に変更がありましたら事務局にご一報ください

滋賀医大病院玄関前に バス停 ができました

バス停が、道路沿いから病院玄関前に移動しました。患者さんや滋賀医大関係者の交通手段がとても便利になりました。

（2006年4月20日から）



お知らせ

関根龍一氏
（医17期生）より
『ベスイスラエルメディカルセンターでの疼痛緩和医療フェローシップ研修』の冊子が届いています。
興味のある方はご連絡ください。

事務局

松本道明
（医15期生）
2006年3月1日にJR湖西線
新旭駅前ロータリーで
整形外科リウマチ科を開業しました。

京川 進
（医13期生）
湖都通信のうちのクリニックの記事を見て、思わぬ人達から連絡が入ったりしてよかったです。
（きょうかわ整形外科クリニック）

高橋 完
（医12期生）
学生・研修医の方で米国での臨床を開始するための準備等について情報が必要な方はご連絡ください。フ
ロリダ大学麻酔科）
：情報希望者は事務局
までご一報ください



ご案内

第8回 関東支部会のご案内

- 1、日時：8月19日（土） 午後6時30分
- 2、開場：品川プリンスホテル「品川大飯店」
tel 03-3440-1111
- 3、講演：瀧畑能子氏（医8期生・前、川崎医療福祉大学教授）
滋賀医大卒業生で初の女性教授
演題「小児眼科弱視・斜視」 終了後懇親会
- 4、研修医・看護学科卒業生・学生は無料

ご協賛
ありがとうございます

杏林製薬株式会社 / 扶桑薬品工業株式会社

（順不同）

訃報

長谷貴将先生（特別
会員）が、5月23日
急逝されました。
ここに謹んで哀悼の
意を表します

お詫び
湖都通信50号で、第5回『湖医会賞』
受賞候補者募集の記事の中で、第3回
受賞者が「小山恒彦」とありましたのは
「小山恒男」の誤りです。
お詫びして訂正いたします。